

# 週

# 報

国際ロータリーテーマ

ロータリーに  
輝きを



Vol.49 第2357回例会

2015.5.21

今年度会長テーマ

みんなで 熱く語ろう ロータリーを!!

■司会：野澤会員



■点鐘：次年度戸澤会長

■合唱：ロータリーソング  
「日も風も星も」



◆ソングリーダー：  
石山会員

■お客様紹介：  
目時パストガバナー



◆お客様：  
所沢中央RC  
畑中教一様



◆お客様：  
東京西北RC  
福田紘一様

## ■会長報告

次年度戸澤会長



皆様、こんにちは。今日は赤木会長が市の用事で府中に行くことになりましたので、会長代行をさせていただきます。

医療付介護老人ホームのお話です。老人ホームに入って腰が痛いと言ったら痛み止めの薬を飲まされます。痛み止めの薬を飲むと血流が悪くなり、高血圧になります。血圧降下剤の薬が投与されると、夜眠れなくなります。すると睡眠薬の投与や抗うつ剤の投与が始まり、5年くらいで寝たきりの状態になる人がいるそうです。

司会の野澤例会運営委員の捕捉に、世界の薬の4割が日本で使われているという現実のお話がありました。

## ■幹事報告

田中幹事



■青少年交換委員会：  
2014～15年度青少年交換来日学生帰国前報告会、来日学生・派遣予定学生合同歓送会について  
6月21日(日) 14:30～  
於 ホテルメトロポリタン

■例会日／毎週木曜日 12:30～13:30

■例会場／八坂神社 社務所

〒189-0013 東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／飯田 能士

■事務所／〒189-0013

東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101  
TEL 042-393-7500 FAX 042-395-1166

■日体桜華高等学校：  
第57回体育祭の案内の受理  
2015年5月30日(土) 9:00～  
於 日体桜華高等学校グラウンド

■例会変更：  
・東京福生RC 5/20(水)→3RC夜間合同例会 他  
・所沢中央RC 6/29(月)→6/27～28移動例会

■回覧：  
・ハイライトよねやま  
・青少年奉仕情報第11号

## 出席報告

岩原会員



在籍会員数	出席	免除	欠席	出席率
28	23	0	5	82.14

■前々回メイクアップ修正後前々会欠席：2名  
■前々回出席率メイクアップ修正後：92.59%  
■前々会メイクアップ者：

## ニコニコBOX

西川会員



- ◆畑中様：所沢中央RCより遊びにきました。お邪魔します。どうぞよろしく。
- ◆赤木会長：戸澤次年度会長、本日の代役よろしくお願ひ致します。樺澤さん、今日の卓話よろしくお願ひ致します。来週の親睦旅行、皆で楽しい旅行にしましょう。
- ◆戸澤次年度会長、田中幹事：  
さわやかな五月晴れ。身も心もさわやかです。所沢中央RC畑中様、東京西北RC福田様、ようこそ東村山へ。どうぞゆっくりして行って下さい。本日の卓話、樺澤様よろしくお願ひします。卓話楽しみに待っていました。今日も一つでも多く学んで帰ります。
- ◆野澤(秀)会員：  
過日、結婚45周年記念で北陸新幹線開通記念を兼ねて金沢・富山に行ってきました。久しぶりの兼六公園は素晴らしかつ

たです。畑中さん、福田さん、ようこそ。福田さんは入会予定者でご紹介したかったのですが、ちょっと残念でした。

- ◆樺澤会員：今日はロータリーの目的の卓話をさせていただきます。がまんして聞いて下さい。
- ◆相羽会員：東京西北RC福田様、ようこそおいで頂き、ありがとうございます。楽しんで下さい。樺澤さん、卓話よろしくお願ひします。
- ◆野崎会員：樺澤先生、体調のすぐれない中、いろいろと資料を分析して頂く卓話をお願いして申し訳ございません。よろしくお願ひします。
- ◆北久保会員：

お客様の畑中様、福田様、ようこそお越し下さりありがとうございます。樺澤さんの卓話を楽しみにさせていただきます。先ほど、樺澤さんは「卓話の時、これまでの内容をUSBに入れて提出してきた」とお話しされていました。卓話者の鏡だと思いました。今日はよろしくお願ひ致します。

本日のニコニコ合計： 21,000円  
累計： 1,537,000円

## 委員長報告

■小町社会奉仕委員長



本日、午後2時より継続的な奉仕活動についてご意見を頂きたいと思ひます。どんな事でも構いませんので宜しくお願ひ致します。

■飯田クラブ管理委員長

愈来愈週に迫ってきました箱根旅行の件です。当日は、7時東村山ロータリー東口に集合(7時10分出發)初日の岡田美術館は、割愛になりました(翌日の歩こう会で美術館見学有り)。少し早目の到着で温泉を堪能して下さい。当日は、盛りだくさんの企画をご用意していますので皆様どうぞお楽しみください!

■清水青少年交換委員長



昨日次年度地区の青少年交換会議に出席をして来ました青少年交換プログラムの現況報告を受けました。次年度は、東村山RCの受け入れは、有りませんので来年から準備をお願ひ致します。

## ■卓話

■卓話者紹介：  
野崎プログラム委員長



■卓話者：樺澤襄会員



### ロータリーの目的(綱領)について(第5稿)

#### ■1. 序

野崎プログラム委員長から、卓話でロータリーの目的(綱領)について解り易い説明をするようにと云われましたが、綱領などに造詣の深い先輩方がおられる中、何で私が、また、私がお話しているのかと思ひ、お受けすることを躊躇しました。そこで、折角、私に勉強の機会を与えて頂いたご指名でしたので、意を決して、私の考えるロータリーの綱領・目的についてお話をさせて頂くことにしました。お陰様で、野崎プログラム委員長のご指導を戴きながらロータリーの勉強ができました。

現在のクラブ定款の第4条に規定されているロータリーの目的と、改正前のロータリーの綱領とは英語の原文は同一で、翻訳を改めたものであることは皆様ご承知のことと存じます。そこで、ロータリーの目的・綱領に関する資料・書籍を漁ってみました。ほとんどが目的・綱領については、翻訳に関わる解説記述が多く、ロータリーの綱領自体の解説は殆どありませんでした。そこで、私の理解したロータリーの目的について貴重なお時間を戴いてお話させて頂きます。ただ、目的の条項の字句のご説明では、翻訳であるため真意が通じないと思ひ、歴史的背景をもって私のロータリーの目的の説明とさせて頂きます。

アメリカのケネディ元大統領は、大統領の就任演説において、「国があなた方に何ができるか聞かないで、あなた方は国のために何ができるかを問いなさい。」と、さらに、世界に向かって、「アメリカが何をしてくれるかだけでなく、我々がともに人類の自由のために何ができるかを問いなさい。」といわれました。これはロータリーの目的にも通じるといえるのではないのでしょうか。

このケネディ元大統領の言葉をお借りしますと、「ロータリーがあなた方に何ができるかではなく、あなた方は愛をもってどのような奉仕ができるかをご自分に問いなさい。」となり、さらに、国際的には、「ロータリーは何をするのかではなく、貴方がロータリーの友情をもってする交流から、国際理解、親善、平和の推進に対してどのような奉仕ができるかを問いなさい。」ということになると思います。

ロータリーは、1905年に、会員相互の事業の助け合いと親睦とを目的として誕生してから、110年の間に、高い職業倫理と奉仕の理念を奨励し、これを実行する職業人の集まりに成長したといえるのではないのでしょうか。

そこで、ロータリークラブの歴史をたどりながら、ロータリーの目的を解いてみたいと思います。

- (1)ロータリーの友の巻頭に「ロータリーとは」として、20世紀初頭におけるアメリカのシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道徳が荒廃しており、信頼できる仲間がいない世の中でした。そこで、青年弁護士ポール・ハリスは、この風潮に耐えかねて、友人三人と、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するようにしたいという趣旨で、1905年2月23日ロータリークラブを創設しました。そして、翌年の1906年に制定されたロータリークラブの最初の定款は、資料(1)

第1条 クラブ会員の事業の利益の増大

第2条 通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思惟する事項の推進

でした。

当時、ロータリーの会員であったフレデリック・ツウイドは、特許出願を依頼していた弁理士のドナルト・カーターに、ロータリークラブへの加入を勧めましたが、ドナルド・カーターは定款をみて、「会員以外の人々に利益になることを何もしないクラブには将来性はありません。市民にも何か奉仕をすべきだと思います。私はこのようなクラブには入る意思はありません。」と入会を断りました。

フレデリック・ツウイドは、ドナルト・カーターの意見に共鳴し、カーターをロータリーに入会させてポール・ハリスを説得して定款に、

第3条 シカゴの最大の利益を推進し、市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める

という奉仕の理念の条項を追加しました。そして、最初の社会奉仕活動が、シカゴに公衆便所を設置したことでした。この公衆便所の設置は単にお金を出したというのではなく、設置に対する障害を排除しながら実現したのでした。このことは、ドナルト・カーター物語として語り継がれており、ロータリーの誕生したときのロータリーの目的である会員同志の親睦と事業の相互扶助に加えて、奉仕の理念が加えられたのでした。

1910年には、アメリカに設立された16クラブによる連合体が結成され、シカゴで開催された連合体の年次大会で最初のロータリーの綱領が採択されました。この綱領には、「市民としての忠誠」に加えて「進歩的な商取引」を挙げており、職業上の相互扶助からの脱却を意図するものとしてみられますが、「会員の事業上の利益の増大」も規定されており、シカゴクラブの定款と同様に、物質的互惠の世界からは脱却できていませんでした。資料(2)

この大会で、アーサー・フレデリック・シェルドンは、19世紀においては、毎日が食うか食われるかの人間の本能むき出しのなかで、利益を追求する経営の時代であり、20世紀は、お互いに協力し合うことで、他人に利益をもたらした上で己の利益を追求することが正しい経営であると、「He profits most who services his fellows best(もっとも仲間によく奉仕する者、最も多く報いられる)」のモットーを発表しましたが注目されないようでした。資料(5)

- (2)1911年のポートランドの年次大会において、アーサー・フレデリック・シェルドンによって、「He profits most who services best(もっともよく奉仕する者、最も多く報いられる)」が提唱され、ロータリーの宣言の結語として採択されました。

この「He profits most who services best(もっともよく奉仕する者、最も多く報いられる)」という職業奉仕の理念は、ロータリー独特の概念であり、ロータリーの会員同志の相互取引によって得ていた利益を、奉仕の実践によって利益を得ようとする考え方



に発展させたものでした。そして、「自己研鑽を重ねて、自分の事業と関係を持つすべての人に幸せをもたらし、その心を持って事業を営めば、必ず最高利益が得られるということを実証し、奉仕の精神の必要性を地域全体の職業人に伝える必要がある。」として事業活動を営むことが職業奉仕であると説いています。

これは、ロータリークラブの創立当初の職業上の互惠扶助主義を根底から否定するものではなく、問題は利益を得ることばかりを考えず、「利益を得るためにはまず与えよ」であり、これが、アーサー・シェルドンの「もっともよく奉仕する者、最も多く報いられる (He profits most who services best)。」であって、日本においては、近江商人の「売手よし・買手よし・世間よし」の商人道に合致するものといえます。

ポール・ハリスも、職業奉仕とは、ロータリアン各自がその事業・専門職務において最高の道德規範を保持することだと定義付けたと、「吾が内なる道德律」という著書の中で、佐藤千寿バスターガバナーは紹介され、職業奉仕の主眼は職業倫理の向上ですと云われています。

- (3) また、このポートランドの大会において、ミネアポリス・クラブ会長のベンジャミン・フランリン・コリンズが、「Service, not self(無私の奉仕)」を発表しました。この演説の要旨は、第1に、自らの利益を得る目的でロータリークラブに入会するのは間違いである。第2に、いろいろな機会を通じて、会員同士の取引の機会を広げていく必要があり、自分一人で商取引を独占するのではなく、他の人たちにも公平に分け与える必要がある。というものでした。

しかしながら、「Service, not self(無私の奉仕)」は、「自己を犠牲にして他人のために奉仕する。」というように理解されて、自己の存在を認めた上で、他人のために奉仕するとして「Service above self(超我の奉仕)」と変更されました。超我の奉仕とは、「奉仕はわが心の幸せ」と意識すればよいのではないかとロータリーの友の編集委員であった松坂麻樹生氏が云われています。

この「He profits most who services best(もっともよく奉仕する者、最も多く報いられる)」と「Service above self(超我の奉仕)」との職業奉仕の二つのモットーが1950年のデトロイト大会にてロータリーに採用されました。資料(5)

- (4) 職業人のためのロータリーの倫理訓(道德律)

1912年には、アメリカ以外の国にもロータリーが誕生しており、ダルースにおける国際ロータリークラブ連合会の年次大会で、会員同志以外の取引にも会員が職業で社会に奉仕することを定めた模範ロータリークラブ定款が承認されました。資料(3)

この定款は、第1に、すべての合法的職業は尊重されるべきで、かつ各会員の職業を社会への奉仕として品位を持つこと、第2に、実業及び専門職業の道德的水準を高めること、第3に、会員は、お互いに情報を交換して各会員の能率を増進すること、第4に、奉仕の機会として、また、成功のために交友関係を推進すること、第5に、公共の福祉に会員各自の関心をもち、市の発展のために協力することが決められました。

しかしながら、このような定款が改正されても、ロータリアン同士の相互取引を中心にした互惠主義が改善されないとの批判から、実業家としての倫理訓が作成され、この倫理訓は1914年のサンフランシスコ国際大会で採択され、1922年には、「倫理訓」が規範的効力を持つことになりました。資料(6)

この倫理訓にある理念は、ロータリーの奉仕理念として考えれば、大変に参考になりますので、主な事項についてお話をさせていただきます。

#### i) 第1条

自分の職業は価値あるものであり、社会に奉仕する絶好の機会を与えられたものと考えること。

職業に貴賤はありませんが、ロータリーの会員には、法律に触れず、公の秩序、善良な風俗を害しない職業であれば、世の中に有益な職業人(有害の麻薬の密売など禁制品の販売業者、また、密輸入業者、禁酒法時代の酒の醸造など世に有益でない職業人を除く。)として選ばれ、世に有益な職業は価値があり、例え本人が自覚していなくても社会に大きな貢献をしているといえます。

言い換えれば、すべての職業は、金を儲ける手段として存在するものではなく、その職業を通じて社会に貢献しているのです。そして、その見返りとして報酬を得ることができるのです。アーサー・シェルドンは小さな奉仕の見返りとして小さな報酬(profit)が、大きな奉仕の見返りとして大きな報酬(profit)が得られると語っています。日本では1600年代に、徳川の家臣から仏門に入った鈴木正三は、仏の教えとして「広く世のためを考えて毎日自分の職業に真剣に励むことが仏の心につながる。」と説いており、アーサー・シェルドンよりもはるか以前に職業倫理を説いております。

#### ii) 第2条

自己改善を図り、実力を培い、奉仕を広げること。それによって「もっともよく奉仕する者、最も多く報いられる (He profits most who services best)。」というロータリーの基本原則を実証すること。

クラブ内においては全ての会員は平等であり、あるときは師であり、あるときは徒となってお互いに学ぶのがロータリーです。米山梅吉氏は、「ロータリーは人生の道場」であるといっておられます。ロータリーの職業奉仕の理念に従った事業経営によって、実力が培われ、事業が発展し、その結果として奉仕の質を高め、量を広げることができるというものです。

#### iii) 第5条

自分が従事している職業の倫理基準を高めるために最善を尽くすこと。そして、自分のやり方が、賢明であり、利益をもたらすものであり、自分の実例に倣うことにより幸福をもたらすことを、他の同業者に悟らせること。

アーサー・シェルドンが提唱し、ロータリーで採択された職業奉仕の理念の中核となる規定です。職業奉仕の究極の目標は、職業倫理を高めるものであり、ロータリーが提唱する職業奉仕の実践に務めれば永続性ある健全な経営と最高の利益が保障されることを、自分の事業を実例として証明すれば、他の同業者もあなたの事業態度を見習うことと思えます。それが業界全体の倫理基準の引き上げになるということです。

したがって、ロータリアン自らが所属する業界のリーダーとなってロータリーの奉仕の理念を広げ、業界全体の倫理基準を高めることができるということです。

iv) 第10条 私は人間社会の他のすべての人以上に、同僚であるロータリアンに義務を負うべきではない。ロータリーの神髄は競争ではなくて協力にあるからである。ロータリーの機関は、決して狭い視野を持つてはならず、人権はロータリークラブのみに限定されるものではなく、人類そのものとして深く広く存在するものであることを、ロータリアンは断言する。さらに、ロータリーは、これらの高い目標に向かっ

て、すべての組織を教育するために、存在するものである。

親睦によって始められたロータリー運動は、その後、会員同士の相互取引によって事業の発展に進んで来ましたが、しかしながら、このロータリアン同士による物質的相互扶助は、内外から大きな批判を浴びて廃止されます。すべての行為の根底には、協力と友情がなければなりません。ロータリー運動は、広く外部に視野を向けて、高い目標に人々を導くために存在しているのです。

前述のフランク・コリンズは、「service, not self」といって、ロータリアン同士の友情は信頼関係で成り立つのであり、利益のために友情を利用してはいけませんということです。

v)第11条 最後に、「すべての人にせられんと思うことは、他人にもその通りにせよ。」という黄金律の普遍性を信じ、我々が、すべての人にこの地球上の天然資源を機会均等に分けられた時に、社会が最もよく保たれることを視聴するものである。

この黄金律は、皆様ご承知のことと存じますが、元来、キリスト教の倫理の原理でマタイ伝に由来するものようで、宗教・哲学・道徳で見いだされる「他人にしてもらいたいと思うような行為をせよ。」という内容の倫理的言明として理解されています。例えば、エジプト、ペルシャ、ギリシャ、ローマ、にも同様な原理があり、また、仏教、儒教、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教も同じような教えがあります。資料(6)

このように、奉仕の理念は、宗教の教えと哲学の理論との差があったとしても、隣人に対して己を捧げることが倫理上の義務であり、アーサー・シェルドンは、この黄金律で述べられている言葉は、「もっとも奉仕する者、最も多く報いられる」と同義語であると述べられています。

この他人を思いやるロータリーの理念に基づいた公平な心で臨み、人類の英知による奉仕がなければ、世界の恒久の平和はないものと思います。

しかしながら、この規定の中に言及されている「黄金律」を巡って、特定の宗教に偏っているなどの批判が続出し、1951年にこの「倫理訓」は廃止されてしまいました。

- (5) 1917年のアトランタにおける国際大会で、アーチ・クラフは、「ロータリーが基金を設立して全世界的規模で、慈善、教育など社会奉仕の分野で何かをしようではないか。」と提案され、「アーチ・クラフ基金」の設立が採択され、この基金は1928年に「ロータリー財団」と名称が変更され、現在では国際ロータリーに属しています。

1922年のロスアンゼルスにおけるロータリーの国際大会で、国際奉仕の考え方が綱領に加えられ、1935年のメキシコ・シティの国際大会で、第4として、「奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的友好によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること」が加えられました。資料(4)

- (6) 1947年-48年の国際大会にて、ケンドリック・ガンジー会長は、「Enter to learn, go forth serve(入りて学び、出て奉仕せよ。)」の題目を発表されました。

物質的相互扶助から決別し、奉仕の理念を確定したロータリーの活動は、例会内活動において高められた心をもって、それぞれの社会において、そこで奉仕活動の実践をするのが理想的なロータリー・ライフであり、親睦を前提とした奉仕の理念を研鑽した後に、それぞれの社会における例会外活動において、奉仕を実践するように順序付けられていました。この流れを「Enter to learn, go forth serve(入りて

学び、出て奉仕せよ。)」と表現したのでした。

すなわち、ロータリーは「親睦」と「奉仕」の実践を目的として活動し、「親睦」とは、会員同士が「ロータリーの精神」という絆で結ばれ、お互いが学び合い、育ちあって自己研鑽に励むという意味合いであり、また、「奉仕」とは、その自己研鑽した「自分を人のために役立てる」という意味合いで、ロータリーはこの「親睦」と「奉仕」との繰り返しであるといえます。

ロータリーの会員増強は、財政上、クラブ組織の維持から必要といえますが、ロータリーは、多くの会員としての知り合いを広めて親睦の機会を高め、新たな仲間が増えれば雰囲気は変わり、互いに奉仕活動の実践を学ぶ機会が多くなって、奉仕の理念を研鑽できるということから会員増強が求められているのです。

- (7) セントルイス宣言・決議 23-34

1923年のセントルイス国際ロータリー年次大会で、国際ロータリー並びにロータリークラブの未来の指針として、綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針を明確に表すものとして決議 23-34 が採られました。資料(7)

その第1には、ロータリーとは、自己のために利益を得ようとする欲望と、他人に奉仕しようとする義務感との争いを和解させようとする人生哲学(人生観)であるとして、個人の倫理を説いており、これが「超我の奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。とロータリーの奉仕理念が説かれています。

次いで、第4に、個人の行動としての「ロータリーの奉仕」とは何かを説き、最後の第6に、「クラブとしての奉仕」を説いています。

この「クラブとしての奉仕」すなわち団体奉仕の要請が高まり、ロータリーは個人奉仕なのか、それとも団体奉仕なのかの大きな論争になり、結局、個人奉仕が主たるものではあるが、団体奉仕も認めようと妥協の産物として決議されたものです。

- (8) 倫理訓か道徳律か(雙鯉雁信帳より)

最後に、佐藤千寿バスターカバナーは、倫理は「愛に基づく一切のこと」、「道徳」は「義務として行われる一切のこと」で、ロータリーでは「道徳律」ではなく、「倫理訓」とすべきですと云われています。

また、深川純一バスターカバナーは、この佐藤千寿バスターカバナーの「愛」の「倫理訓」に対して、「ロータリー倫理訓」の根底に流れる思想は、「職業奉仕は倫理=愛と考えるものであります。」と云われ、「愛の発現形態が倫理であり、これが文章化されたものが「倫理訓」であると云われています。

そして、佐藤千寿バスターカバナーは、「昔、インドに相思相愛の王様が最愛の奥様に、「よく考えてみると、私は、最愛のお前より、私自身が一番愛しいように思う。」といい、奥様も、「実は、私も、貴方より私自身の方が一番愛しいと思います。」と答えられました。王様は「皆が皆、自分自身が一番可愛いと思ったら、この世の中は成り立たないね。お釈迦様に聞いてみよう。」と云ってお釈迦様に尋ねたそうです。お釈迦様は、「人間は誰でも皆、自分自身が一番可愛いのです。ただ、相手も、自分自身が一番可愛いと忘れないように。」とお諭しになりました。

ここから、相手に対する思いやりの心が芽生え、自分以外の人に対する愛が始まるのです。この理をロータリーに当てはめると、ロータリーの会員は、皆、職業人です。そこで、自分の職業を愛すべきであり、自分の職業を愛すればこそ、それが他人への



思いやりとなり、他人への愛の心が芽生え、「職業倫理」の自覚・提唱に繋がるのであります。それが企業の社会的責任の自覚へと発展してゆくということです。

#### ■6. ロータリーの目的の総括

- (1) 以上、お話いたしましたとおり、ロータリーの目的でいう「奉仕」は、端的に申し上げれば、他人への思いやりとして他人への愛の心で人を育てる奉仕であり、このことから、「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、育むことにある。」とされています。

このロータリーの目的は、世に有益な職業、すなわち、法律、公の秩序、善良な風俗に反しない職業は価値があり、会員自身は儲けるために事業を営んでいるものと考え、自分の職業に価値があると自覚していなくても、社会的に大きな貢献をしてものものであり、「会員、個人個人が自分の事業は価値あるものと認識し、他人への愛の心で人を育てるとする奉仕の理念」を奨励し育むことであると理解しています。

- (2) 「Enter to learn, go forth serve(入りて学び、出て奉仕せよ。)」と表現されていますように、「奉仕」は、その自己研鑽した「自分を人のために役立てる」という意味合いで、ロータリーはこの「親睦」と「奉仕」との繰り返しであり、目的の第1の「知り合いを広めることによって奉仕の機会とする。」は、お互いが親睦を通して学び合い、自己研鑽に励むには、多くの友人がいれば、それだけ多くの研鑽の糧になり、多くの友人との交流によりより研鑽に励む機会が増え、より優れた奉仕ができることになるということであると理解しております。
- (3) 目的の主文に「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。」とされていることから、ロータリーの理念の中核をなすものは、職業奉仕であり、目的の第2の「職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。」から、職業奉仕の目指すものは、職業倫理の高揚であるといえます。
- 前述のロータリーの倫理訓に示されているような高い倫理基準に基づいて世に有用な事業及び専門職務の価値を高めて、会員の自己の職業を高尚で潔白なものとするものであると考えます。
- (4) 目的の第3の「ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。」から、ロータリー哲学は実践哲学であり、行動が伴わなくては意味がありません。例会において、奉仕の理念を研鑽し、自らの個人生活、職業生活、社会生活の場で奉仕活動の実践に移すことが求められています。
- (5) 目的4には、国際奉仕の理念が、「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること」と定義されています。この定義に従えば、国家という概念にとらわれず、会員同士の信頼ある友情に基づいた国際理解と善意によって、現実の一つでない世界を一つにして、恒久の世界平和を達成することを目的としているといえます。すなわち、ロータリーの国際奉仕とは個人同志の付き合いで世界平和を達成することであると考えます。

したがって、綱領に従った純粋な国際奉仕活動は、青少年交換、奨学生制度など会員による個人レベル、クラブレベル交流が、綱領4に定められているロータリーの国際奉仕の目的に添うものと理解します。

■7. 1947年(昭和22年)にポール・ハリスがこの世を去ったときに、ポール・ハリスの念願である「国際理解と親善と平和、ロータリー財団による若者たちの育成」を受け継ぎ、若者の教育のために「ロータリー財団を育てよう」ということになりました。

双鯉雁信帳で深川バストカバナーは、ロータリー財団は原点が教育にあることを忘れて、最近、人道主義的奉仕という美名のもとに慈善事業に傾斜していく傾向があり、ロータリー財団の原点が教育にあることは、正に財団の核にある考え方なのであります。慈善事業はロータリーに本体的なものではなく、あくまで倫理運動であり、ロータリアンの心の育成にあります。ロータリーが如何に慈善事業に傾倒したところでアメリカの一富豪にも及ばないことは佐藤千寿バストカバナーも解かれています。ロータリーでなければ出来ないものは何か、人を育てること、すなわち教育であります。だからこそロータリーは倫理運動なのです。というご趣旨を話しておられます。

皆様、ロータリー財団ではポリオの撲滅の実現に努めていることをご承知のことと思いますが、ビル・アンド・メリンダ・ケイツ財団多額の補助金を受けております。この誇るべきロータリー財団の「ポリオ撲滅」というプログラムの歴史の中で忘れてはならないお仲間が我が国際ロータリーの我が地区に居られました。それは、麹町ロータリークラブの山田ツネ様と峰英二様のお二人で、インドにてワクチンの投与に活躍されており、ポリオ撲滅という壮大な計画をロータリー財団のプログラムに取り入れられるご努力をされました。ポリオ撲滅も夢ではなくなってきましたが、国際ロータリーの歴史の中には山田様、峰様とのお名前が出てきません。残念なことに山田様はインドの風土病でお亡くなり、峰様もお亡くなりになりました。

また、友情という愛のない「施しの奉仕」は、ロータリーの本質的な奉仕ではありません。ロータリーの奉仕は、「ロータリアンの心」を育てること、人を「育てる奉仕」であります。そして、その中核は職業奉仕なのであり、この核を失えばロータリーでなくなってしまう。そして、社会奉仕、国際奉仕、これらの奉仕は本質的には育てる奉仕でなければなりません。

先々月でしたか、国際ロータリー 2600地区のガバナーから、木曾御嶽山災害に対して、義捐金の協力依頼ではなく、観光に来られることの協力依頼があり、これがロータリアンの心であり、また、昨年度、我がクラブが行った東北に親睦旅行も正にロータリーの奉仕であると考えます。

ご清聴ありがとうございました

■閉会点鐘：次年度戸澤会長